

巻 頭 言

2021 年度年報 発刊にあたり

社会医療法人蘇西厚生会 松波総合病院

理事長 松 波 英 寿

2019 年来、世界中がコロナに振り回され、すべての産業がコロナにかかわった状態で回っていると思います。補助金、支援金等、多くのお金が、医療界はもとより、多くの産業に給付され、医療を含めた多くの産業が何とか持続できているのが現状でしょう。そのような中で、私たちは2021年何を行ったか振り返ってみます。

新しい診療内容としては、温熱療法を開始した事が挙げられます。がんの高温に弱い特性を利用した古くからある療法ですが、対象となる腫瘍に温熱が効率よく集中できる装置が開発された為、近年導入が盛んになっています。県内では初めて当院が導入し、約半年間の利用で、著効を示す患者さんも出ています。今後、放射線療法、化学療法との併用で多くの患者さんの救いになると期待しています。

事業として大きなことは、アイン薬局に敷地内薬局として入ってもらうことを決定したことです。医薬分業が提唱され、院外処方箋が誘導されましたが、患者さんの立場から考えれば、今までは病院内でもらえた薬が、病院では処方箋のみもらい、それを自分でFAXして病院外の調剤薬局に行き、改めて薬を受け取らなければならない煩雑な仕組みでした。そのような患者さんの不便利性を解消する画期的な方法が敷地内（建物内）薬局ですが、患者にとって朗報となり、なおかつ病院は土地代として新たな収入源ができ、調剤薬局は患者さんが一極集中するので、売り上げが上がるわけです。すなわち“3方よし”のシステムです。これは今後期待できます。

コロナに対する診療では、受入れ病床の拡大に伴い、総合内科・S7病棟のスタッフには多大な労力を提供していただきました。また、発熱外来、予防接種でも多くのスタッフに協力いただき、地域の要望に応えることができました。さらに入院患者さんやスタッフの感染にともない、病棟の移動制限等がしばしば発生し、通常より少ないスタッフでの日常医療の続行も余儀なくされました。これらの困難を乗り切れたのは一重に全てのスタッフの献身的な職務遂行のおかげであると思います。全スタッフに心から御礼を申し上げます。種々の診療制限に伴い医療収支は当然赤字になりますが、幸い国から補助金が支給されるので、苦勞を掛けたスタッフ、あるいは全職員に、種々の形で一次金・報奨金として、お送りした次第です。総額は数億円となり、2021年度の人件費比率は大きく上がりましたが、コロナを乗り越えるためには当然の給付であったと考えています。（近郊の多くの病院ではそのような給付は行われず、初期にはボーナスがカットされた病院もありました。）

この一年間、コロナに適切に対処しつつ、地域の中核病院としての使命を果たしてきた結果がこの年報です。職員におかれましては、業績を振り返り、良い点悪い点を認識して、良い点はさらに伸ばし、悪い点は改めていただけたらと思います。院外の先生に於かれましては、ご指導ご鞭撻をいただきましたら幸いです。よろしくお願い申し上げます。

巻 頭 言

社会医療法人蘇西厚生会 松波総合病院

病院長 松 波 和 寿

COVID-19 の発生から 3 年が経過しました。これを執筆している段階では第 7 波の最中であり、日本では累積 1,500 万人の感染者が発生しています。まさに、パンデミックと言われる世界的な流行となり、国内では緊急事態宣言、蔓延防止措置を繰り返し、「新しい生活様式」を強いられている状態です。ワクチン・検査・治療薬や医療提供体制が整ってくる中で、強力な社会経済活動の制限を伴う対策からの出口を探り、段階的に、穏やかな対策で感染症と共存する対策に舵を切るべきでしょう。今後、COVID-19 がどのように変異していくのかは見通せていません。いつまで続くのかも誰にもわかりません。引き続き感染リスクの高い行動は控え、マスク着用、手指衛生、3密回避、室内換気など基本的な感染対策を徹底しましょう。COVID-19 以外にも地球規模の異常気象などによる自然災害、異国の戦争による資源不足、円安など日本にとっては極めて厳しい状態が続きます。その中において安定して、質の高い医療を継続的に提供し、地域住民を守るという責務を果たすために、今後も一丸となって進んでいきましょう。

前年度に掲げたキーワードは、DX・ダイバーシティ・イノベーションでした。DX に関しては 2021 年 12 月に MDX(松波デジタルトランスフォーメーション)を立ち上げ、各種申請書の電子化、SNS 及びリクルート対策動画の作成、病院ホームページのリニューアルと先進化に着手し、継続的に業務効率化を実践し続けていきます。

また、2022 年 11 月にはダイバーシティをテーマに掲げ、第 22 回日本クリニカルパス学会学術集会を岐阜で開催することとなりました。世界的に加速度的な変化が進み、イノベーションが最も求められる中、日本でも消費者（患者様）の価値観の多様化、消費者ニーズの多様性が進んでいることは無視できません。職員一人ひとりの違いが不利にならず、全職員が持っている能力と可能性をフルに発揮して貢献できるよう、ダイバーシティを推進していくことが病院の将来の繁栄へつながっていくでしょう。

あ と が き

このたび、蘇西厚生会の2021年度(令和3)年報を発行することとなりました。この年報により、蘇西厚生会全スタッフが我々の活動を再認識し、次年度のますますの進展につながるようお願いしています。

また、連携医の先生方を始め関係各所の皆さまには、年報をご覧いただくことによって当院の現況活動内容をご理解いただき、今後ますます当院との強い関係が築けていくことができましたら幸いです。

COVID-19は世界中猛威を振るっており、日本におきましても医療だけでなく経済にも相当なダメージを与えています。当院におきましても医療体制を確保し継続するために、患者さま、連携医の先生方にご協力をいただくことが多々ありましたし、病院職員も多くの制限、多くの犠牲をはらう状況が続いています。

まだまだ先の見えないコロナ禍の状況ではありますが、当院に与えられた使命を全うするとともに、患者さま、連携の先生方に認めていただけるよう、日々努力を重ねて行く所存です。

皆さま方の引き続きのご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

副院長 診療局長 林 慎

年 報 2021 年度

令和4年11月発行

発行者 社会医療法人蘇西厚生会 松波総合病院

〒501-6062 岐阜県羽島郡笠松町田代185-1

TEL 058-388-0111 (代) FAX 058-388-2391
